

第1部 2009年度第2四半期決算概要 及び 2009年度業績予想

副社長 木下幸雄

2009年度第2四半期 業績サマリー

単位: 億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・前年同期比大幅減
- ・標準・量産機械は08/下に底打ち、上昇トレンドへ

(2) 売上高

- ・受注減少を反映し前年同期比減少
- ・標準・量産機械は減少する底打ち

(3) 営業利益

- ・前年同期比大幅減少するもコスト削減により見込みより改善

(4) 純利益

- ・営業利益改善により黒字化

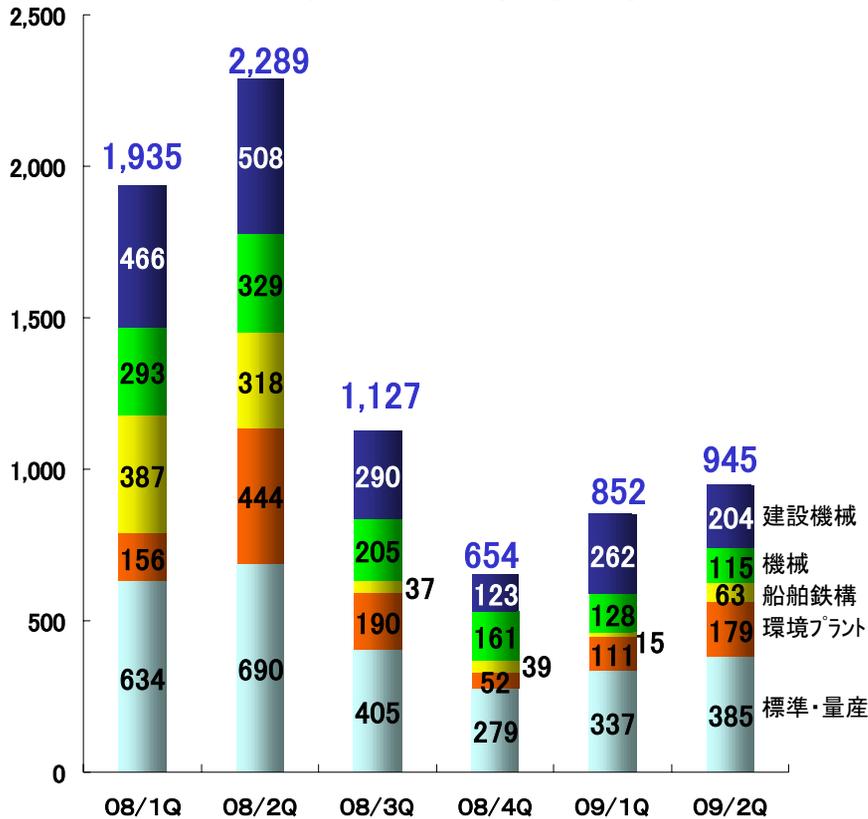
	2009/上	2008/上	増減
受注高	1,797	4,225	△2,428
売上高	2,517	3,408	△891
営業利益	82	344	△261
営業利益率	3.3%	10.1%	△6.8%
経常利益	73	340	△267
経常利益率	2.9%	10.0%	△7.1%
特別損益	△2	△2	△0
純利益	13	198	△185
純利益率	0.5%	5.8%	△5.3%

受注・売上 四半期推移

単位: 億円

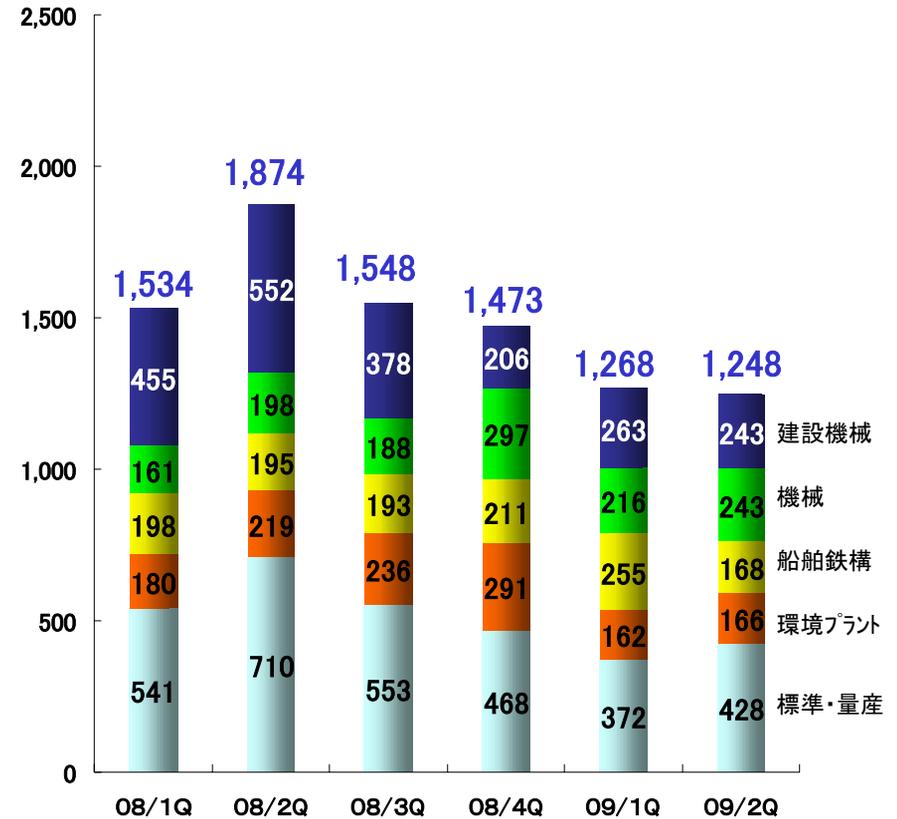
受注

08/4Qを底に回復基調で推移する
依然として低水準。



売上

09/1Qから2Qにかけて底打ち。



セグメント別営業利益

■ 標準・量産機械

半期ベースでは赤字になるも、固定費削減の効果もあり、2Qで持ち直した。変減速機、プラスチックとも回復へ。

■ 環境・プラントその他

売上減少により利益低下するも、コストダウンで見込みより改善。

■ 船舶鉄構・機器

原材料価格の高騰や為替の影響により利益が減少するもコストダウンで見込みより改善。

■ 機械

売上増およびコストダウンにより見込みより改善。

■ 建設機械

油圧ショベルは前年4Qより持ち直し傾向。逆に米国モバイルクレーンは市況悪化により低迷。

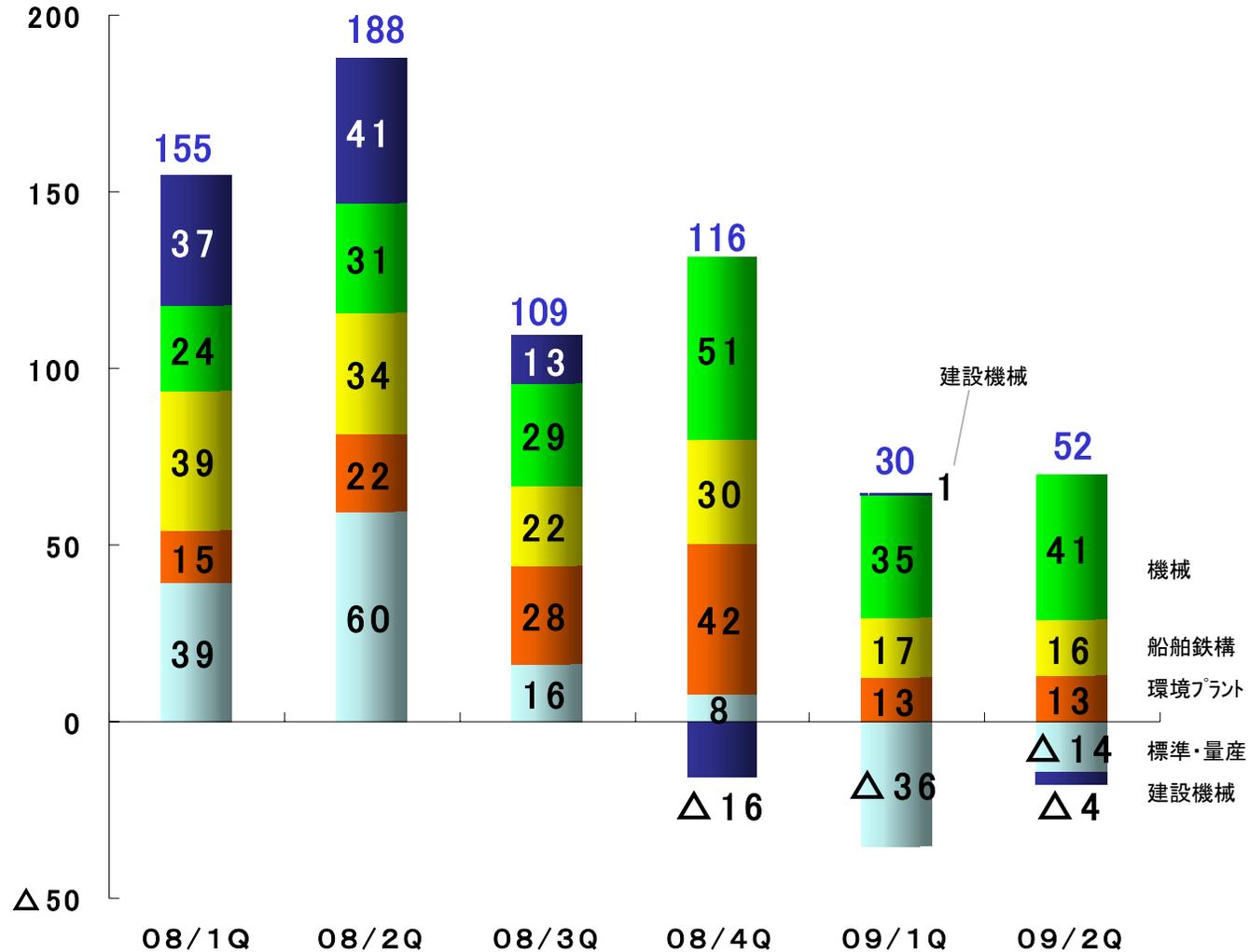
単位:億円

	2009/上	2008/上	増減
標準・ 量産機械	△50	99	△149
環境・プラント その他	26	37	△11
船舶鉄構・ 機器	32	73	△41
機械	76	55	20
建設機械	△3	78	△81
計	82	344	△261

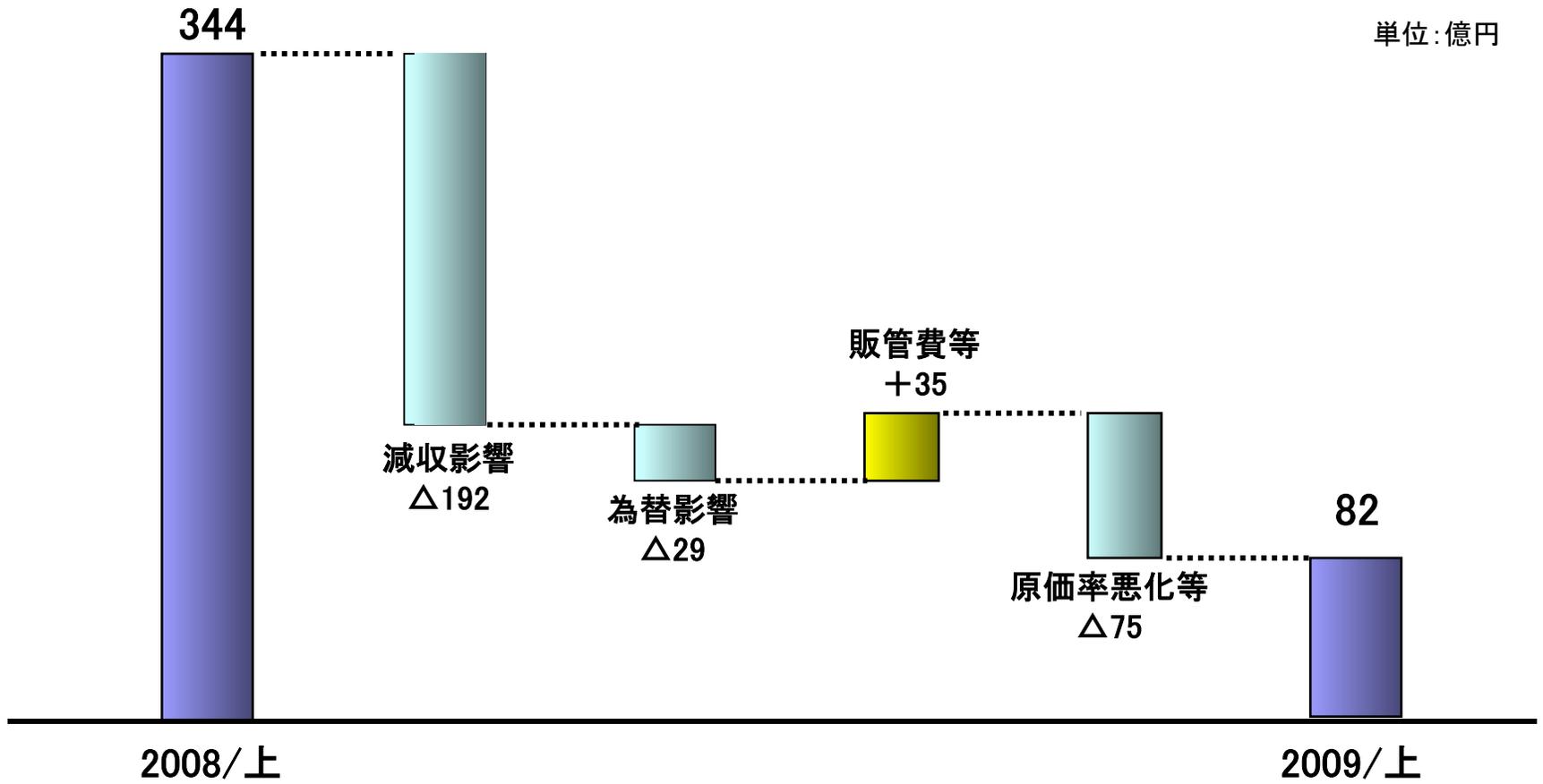
営業利益 四半期推移

09/1Qを底に回復基調で推移するも依然として低水準。

単位: 億円



營業利益增減分析(2008/上—2009/上)



連結貸借対照表

				単位:億円			
	2009/9末	2009/3末	増減		2009/9末	2009/3末	増減
流動資産	3,236	3,803	△567	負債	3,574	4,187	△613
現預金	429	447	△18	買掛債務	965	1,361	△396
売上債権	1,163	1,557	△394	前受金	467	500	△33
たな卸資産	1,403	1,494	△91	有利子負債	969	1,103	△134
その他	241	306	△65	その他	1,174	1,223	△50
固定資産	2,781	2,771	10	純資産	2,442	2,387	55
有形固定資産	2,229	2,140	88	株主資本	1,999	1,986	13
無形固定資産	71	64	7	評価・換算差額等	347	300	47
投資その他の資産	481	567	△86	少数株主持分	97	101	△4
合計	6,017	6,574	△557	合計	6,017	6,574	△557
				ネット有利子負債 比率	9.0%	10.0%	△1.0%
				自己資本比率	39.0%	34.8%	4.2%

連結キャッシュフロー計算書

単位:億円

区 分	2009/上	2008/上	増減
営業活動	232	283	△51
利払い・償却前事業収益	172	422	△254
運転資本	73	32	41
その他	△13	△171	162
投資活動	△93	△140	47
フリーキャッシュ・フロー	139	143	△4
財務活動	△171	△100	△71
現金・現金同等物増減	△23	39	△62
現金・現金同等物期末残高	421	338	83

2009年度セグメント別業績予想

- ポイント (1) 受注は2008年度下期がボトム。2009年度は上期横ばいから下期に向けて回復。
 (2) 売上は2009年度上期がボトム、下期に向けて回復。
 (3) 営業利益は標準・量産と建機の収益改善がポイントとなる。

単位: 億円

		2008下期 実績	2009上期 実績	2009下期 予想	2009年度 予想	2008年度 実績
標準・量産機 械	受注高	684	722	928	1,650	2,008
	売上高	1,021	801	909	1,710	2,272
	営業利益	24	△50	0	△50	123
環境・プラント その他	受注高	242	290	410	700	842
	売上高	527	328	472	800	926
	営業利益	70	26	49	75	107
船舶鉄構・機 器	受注高	76	77	73	150	781
	売上高	404	423	357	780	796
	営業利益	52	32	23	55	126
機械	受注高	366	242	458	700	988
	売上高	485	458	442	900	843
	営業利益	81	76	39	115	136
建設機械	受注高	413	466	534	1,000	1,388
	売上高	585	506	504	1,010	1,592
	営業利益	△2	△3	△2	△5	75
合計	受注高	1,782	1,797	2,403	4,200	6,007
	売上高	3,021	2,517	2,683	5,200	6,429
	営業利益	226	82	108	190	569

2009年度業績予想

■ ポイント

- (1) 受注は下期回復を見込む。
- (2) 上期営業利益の改善により営業利益の年度予想は好転。
- (3) 年度純利益の好転予想により、通期で3円配当へ。

単位: 億円

	2009上期実績	2009下期予想	2009年度予想	2008年度実績
受注高	1,797	2,403	4,200	6,007
売上高	2,517	2,683	5,200	6,429
営業利益	82	108	190	569
営業利益率	3.3%	4.0%	3.7%	8.9%
経常利益	73	87	160	503
経常利益率	2.9%	3.2%	3.1%	7.8%
特別損益	△2	-	△2	△165
当期純利益	13	37	50	136
当期利益率	0.5%	1.4%	1.0%	2.1%
配当	0円	3円	3円	6円
配当性向	-	-	36.2%	26.5%
ROIC (税引後)	-	-	3.2%	9.6%
織込レート(ドル)	96円	90円	-	103円

第2部 経営戦略

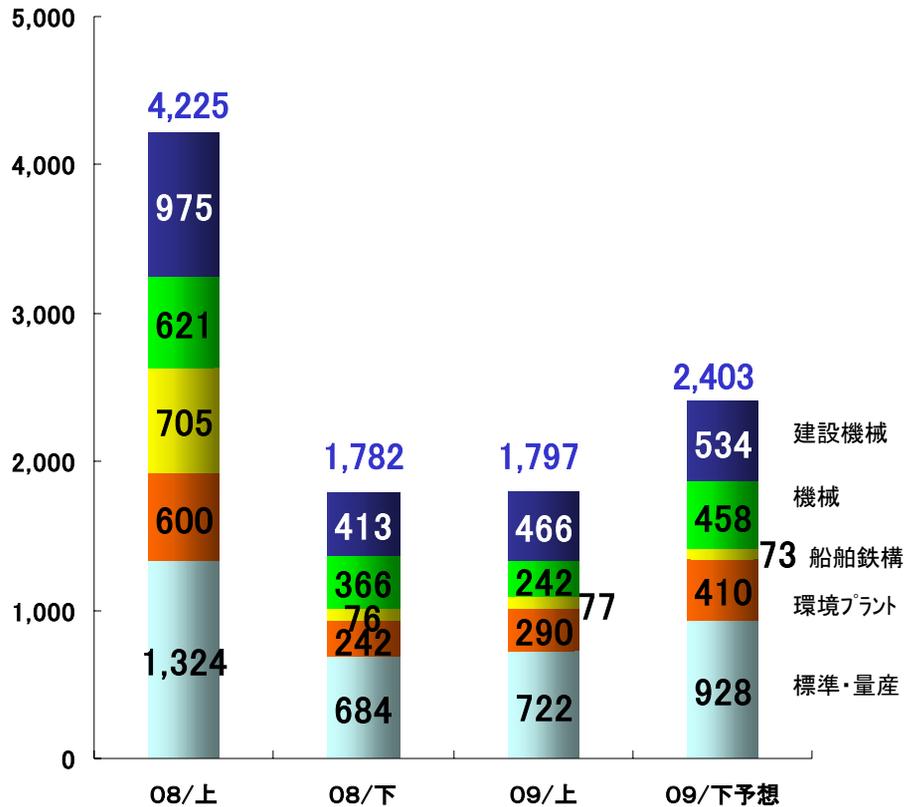
社長 中村 吉伸

受注・売上 半期推移

単位:億円

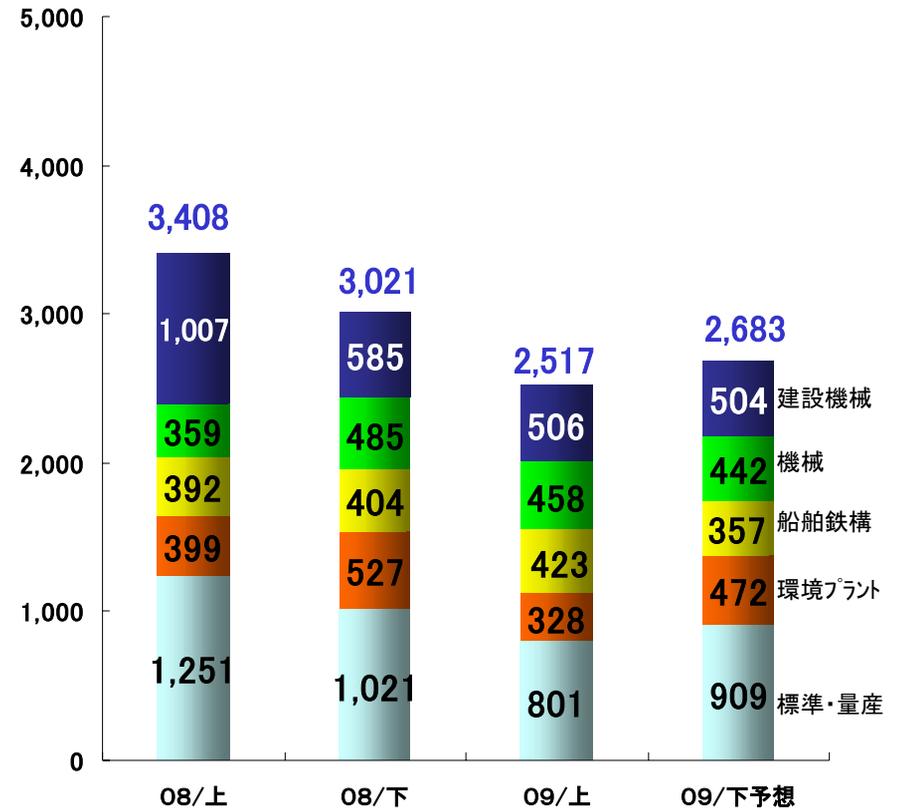
受注高

08/4Qを底に回復基調で推移、
09/下期はさらに増加するも低水準。



売上高

受注状況を反映し、徐々に回復。



2009年度セグメント別受注環境

- 標準・量産は回復基調だが全体として依然低水準。
- 重機械系は大型案件のずれ込みもあり受注環境は依然厳しい。

単位:億円

セグメント		受注状況	2009年度受注金額		
			上期実績	下期予想	通期予想
標準・量産機械	変減速機	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外とも厳しい受注環境が続くも、全体として横這い感から回復傾向へ。 ・海外ではインフラ関連に動きが出てきた。 	294	361	655
	プラスチック加工機械	<ul style="list-style-type: none"> ・北アジアでは引き合いが増加してきたが、南アジアは横這い。 ・引き合いが増加しているのはOA通信機器、電子部品分野。自動車は低調。 ・欧州は緩やかにだが回復の兆し。 	173	197	370
	精密制御機械・コンポーネント他	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関連は海外でアジアを中心に堅調。 ・液晶・半導体は設備投資計画の見直しや延期を受け苦戦するも動きは出てきた。 	254	371	625
		小計	722	928	1,650
環境・プラントその他		<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラは9月に国内で1件受注するも厳しい受注環境は継続。 ・水処理は上下水処理設備が発注前倒し実施の影響で受注件数増加。民間水処理需要は一部客先計画が延期。 	290	410	700
船舶鉄構・機器		<ul style="list-style-type: none"> ・修理船は堅調だが、新造船は様子見の状態が継続。 ・コークドラムは厳しい受注環境が継続。 	77	73	150
機械		<ul style="list-style-type: none"> ・タービンは北米・東南アジアで受注を確保。ポンプはEPC向けに大型案件を受注。 ・クレーン、プレス、製鉄機械関係は客先大型案件がずれ込み。 	242	458	700
建設機械		<ul style="list-style-type: none"> ・油圧ショベルは中国が計画を大きく上回ったが、欧米、日本の減少をカバーできず。 ・モバイルクレーンは米国で厳しい市況が継続する見通し。 	466	534	1,000
		合計	1,797	2,403	4,200

標準・量産機械

変減速機:

09上期:6月以降上昇傾向で推移。中型でやや回復傾向が見られる。セイサは好調。

09下期:国内市場向けは低調。欧米の回復は緩やか。中国・東南アジアでは一部大型で引き合いが増加。唐山の生産を軌道に乗せ、中国国内向けの拡販を図る。

プラスチック加工機械:

09上期:4月以降国内メーカー総需要は増加傾向。北アジアのOA通信機器、電子部品分野での引き合いが増えている。

09下期:国内メーカー総需要は当面現状程度で横這い。韓国や中国・台湾を中心に北アジアはさらなる回復の兆しが見える。欧州は底打ちから回復の兆し。

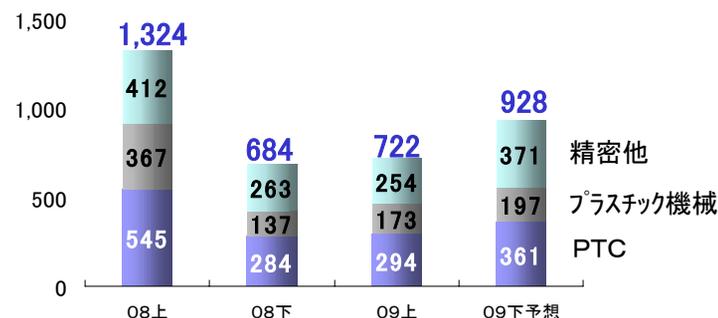
精密制御・コンポーネント他:

09上期:中国でPETシステムを受注。

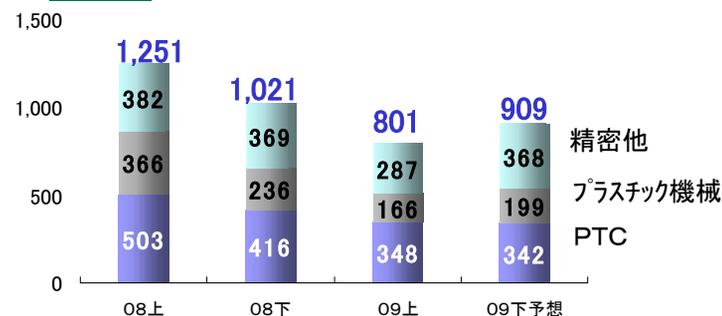
09下期:中国のPETシステム投資計画は継続の見込み。陽子線がん治療システム案件が具体化の動き。半導体関連では、上期末から市況回復の兆しが高まっており引合が増加している。

単位:億円

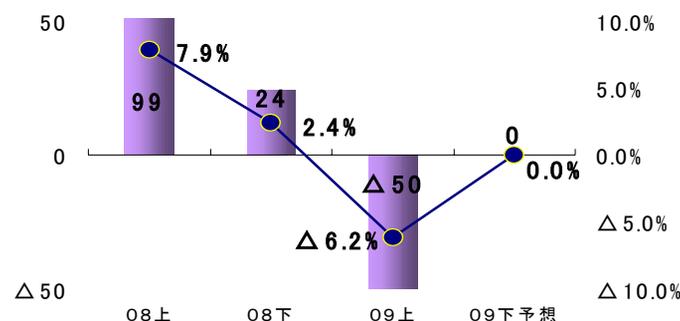
受注



売上



営業利益



環境・プラントその他

エネルギープラント:

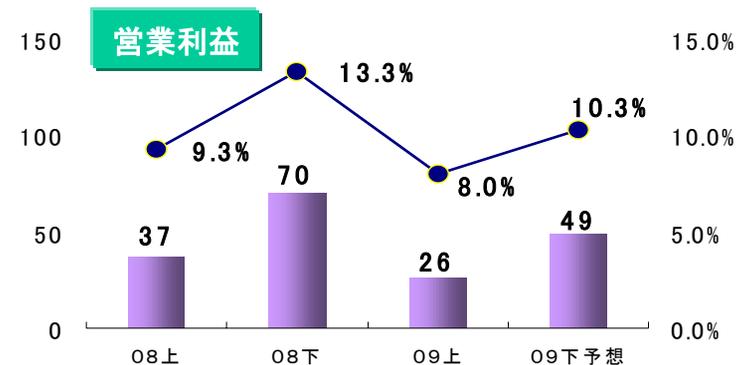
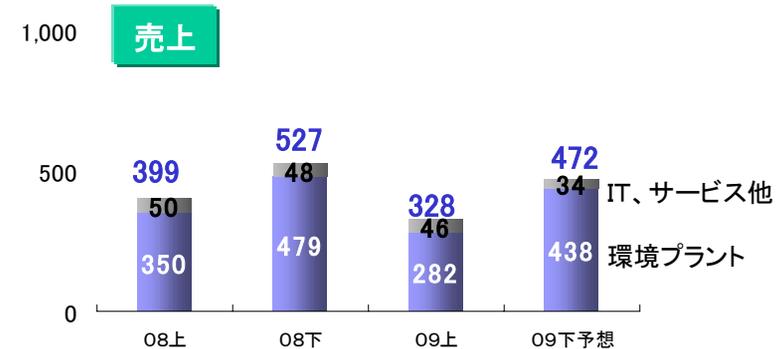
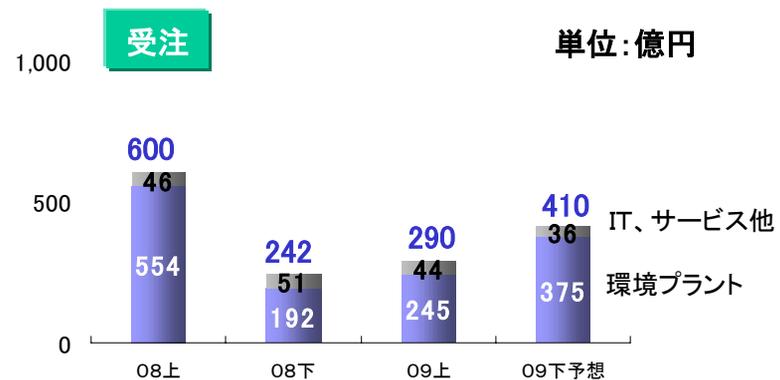
09上期:国内の産業用発電ボイラ1件受注するも全般的に低調。

09下期:東南アジアでの営業を強化し拡販を目指す。国内案件の深耕、小型ボイラの案件開拓により、受注拡大を目指す。

水処理プラント:

09上期:民間の排水処理設備は大型案件の発注が下期にずれ込むケースが増加した。上下水処理設備は発注が前倒しで実施されたことにより昨年受注実績を上回った。

09下期:民需案件の受注に注力する。また、ユニット機器の開発・拡販を推進する。



船舶鉄構・機器

船舶:

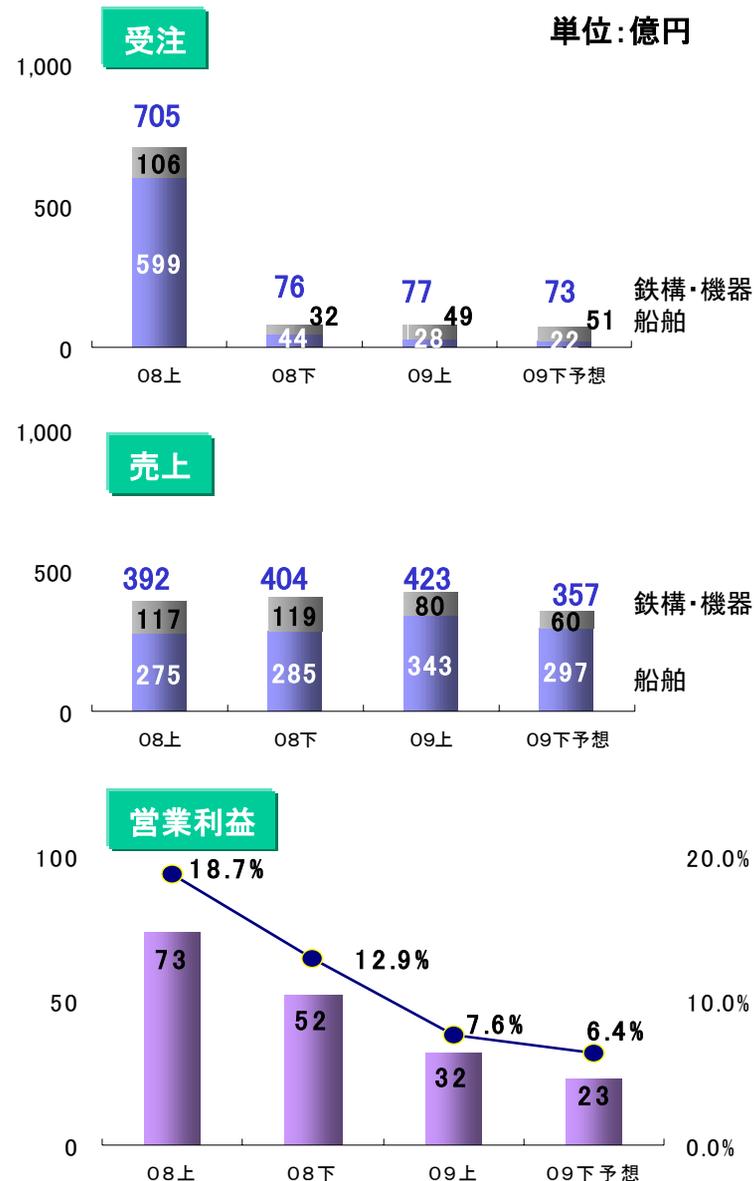
09上期: 船主の様子見が継続しており上期受注はゼロ。売上は5隻と前期比1隻増。原材料高騰や為替の影響で利益率が悪化。修理船については受注が堅調。

09下期: 売上は4隻の計画だが、原材料高騰の影響が和らぎ利益率好転。

鉄構機器:

09上期: 石油精製プロジェクトが一部再開し、コークドラムを受注。前期の受注が激減したことから売上は減少。原材料高騰や為替の影響あり。

09下期: 受注は客先の慎重な投資計画により厳しい状況が続く。



機械

鍛造プレス・製鉄機械:

09上期:上期案件の期ズレが発生し、受注は計画より大幅に落ち込んだ。売上は受注残により堅調に推移。

09下期:上期案件の受注に注力する。アフターマーケットの事業を強化し、受注を確保する。

運搬機械:

09上期:製鉄会社向けの受注案件で期ズレが発生し、上期は計画未達。売上は前期受注の好調により堅調に推移。

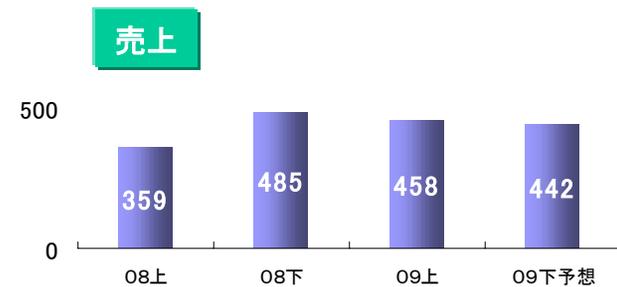
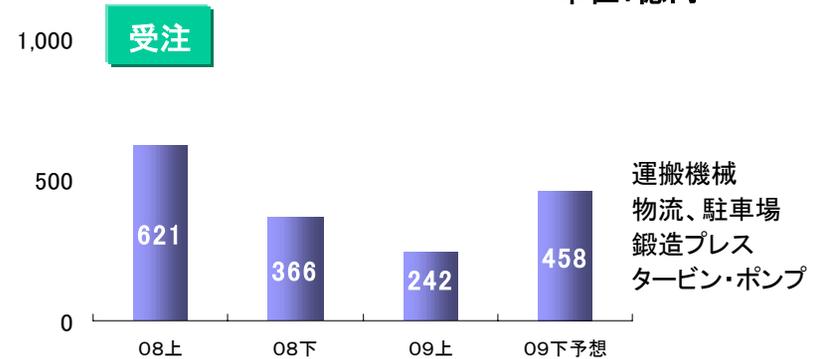
09下期:製鉄会社向けの引合が増加しており、受注に向け営業を強化する。売上は受注残があるため堅調。

タービン・ポンプ:

09上期:タービンは北米・東南アジアなどで受注を確保。売上も堅調で前年同期比増加した。ポンプも韓国向けなどの大型案件が貢献し08年度上期比増加した。

09下期:タービンは東南アジアでの営業強化により受注を確保する。ポンプはサービス活動の強化とEPCからの受注確保を目指す。

単位:億円



建設機械

ショベル・道路機械:

09上期: 需要は前年同期比で中国を除き大幅減。

唐山工場は順調に立ち上がり稼動中。

09下期: 国内市況は厳しい状況で推移。

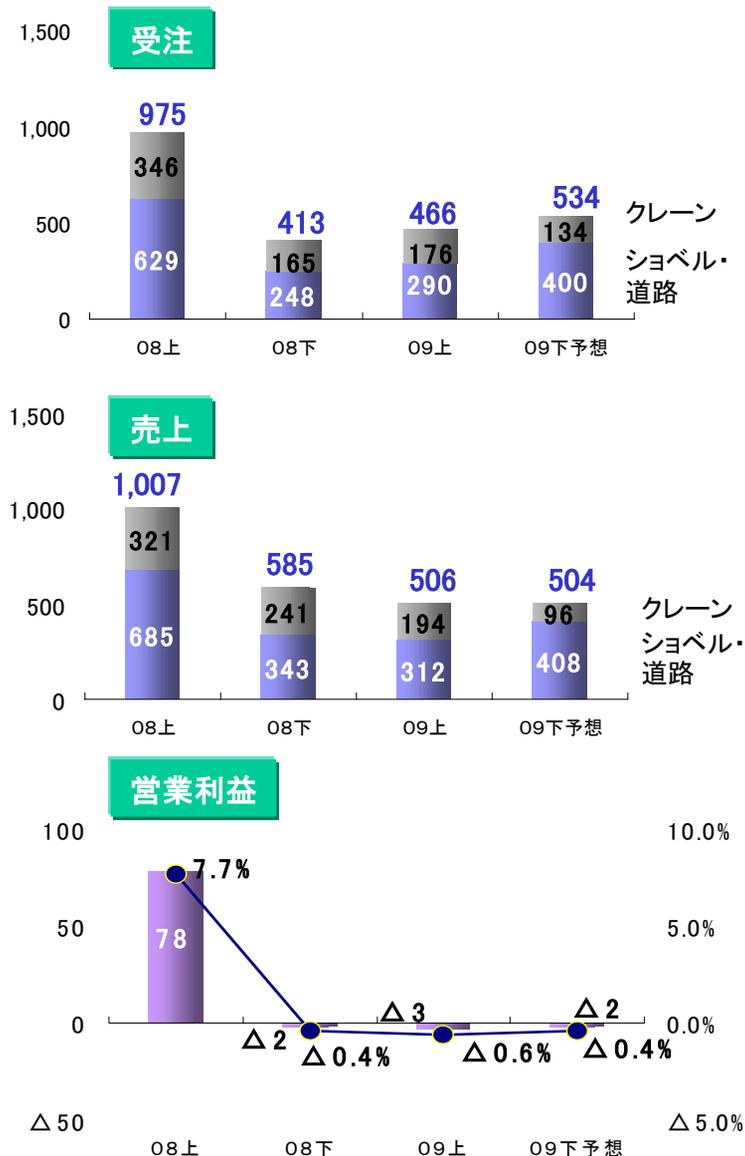
海外では、北米は底這い、欧州は底を打ったが回復の兆しは未だ見えず、中国のみ堅調に推移する見込み。

アスファルトフィニッシャーは中国での需要伸張に期待。

クレーン:

09上期: 北米市場でのインフラ整備などの需要が急激に落ち込み、受注は前年同期比半減した。これに伴い、売上も減少した。

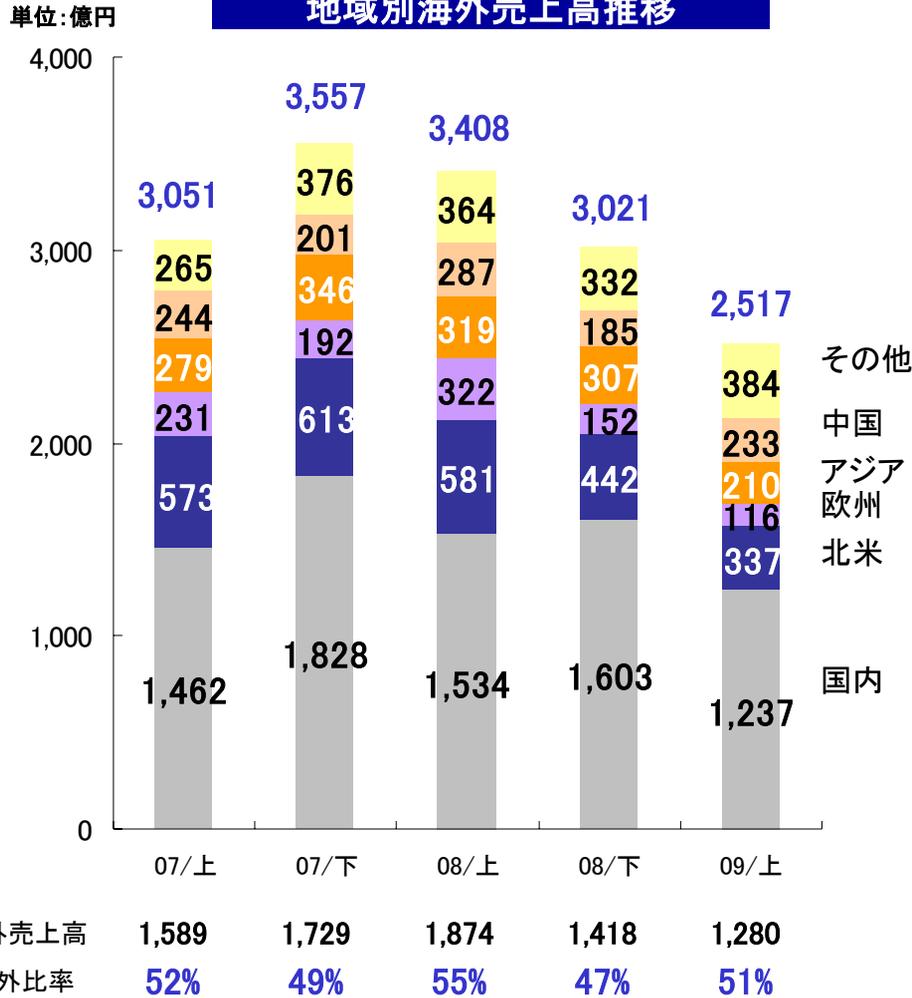
09下期: 回復の傾向は見られず、受注は上期並みを見込む。売上は上期比さらに減少する見込み。



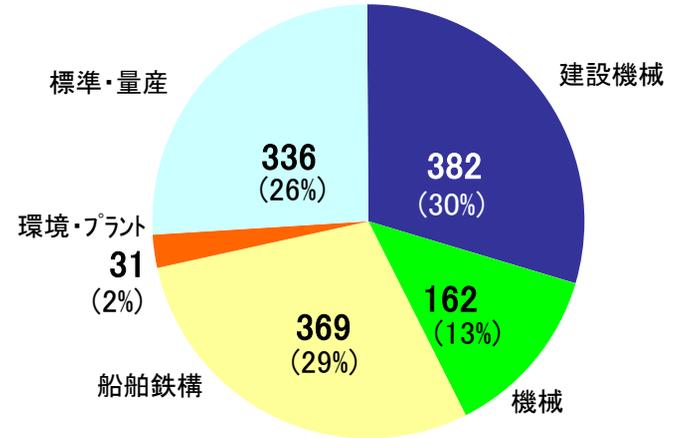
海外売上高

単位: 億円

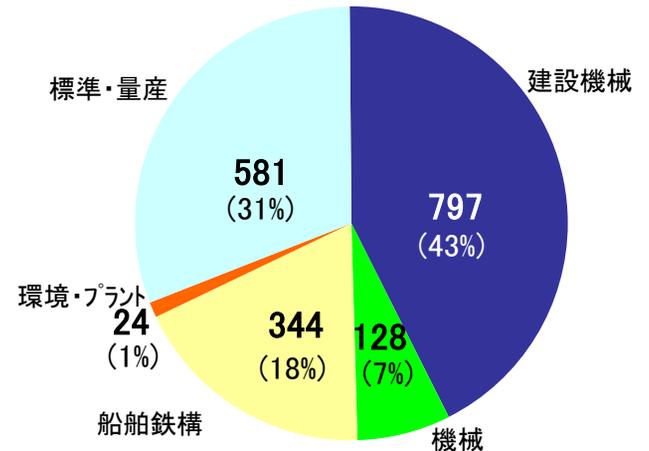
地域別海外売上高推移



09/上 セグメント別海外売上高



08/上 セグメント別海外売上高



本格稼働を開始した中国・唐山工場

住友重機械(唐山)有限公司: 大型減速機の製造

住友建機(唐山)有限公司: 油圧ショベルの製造

- ・大型減速機1号機は2009年2月16日に、油圧ショベル1号機は同年4月30日に、それぞれ完成・出荷
- ・2009年6月6日 現地にて開所式を開催
- ・2009年度 油圧ショベル生産計画 800台



2009年6月6日 唐山工場開所式(PTC、建機)



建機工場



共管棟、減速機工場



唐山工場 油圧ショベル1号機出荷



建機工場内部



大型減速機の組立風景

技術イノベーションによる成長市場の攻略

重機械

量産機械

精密機械

地球環境・エネルギー

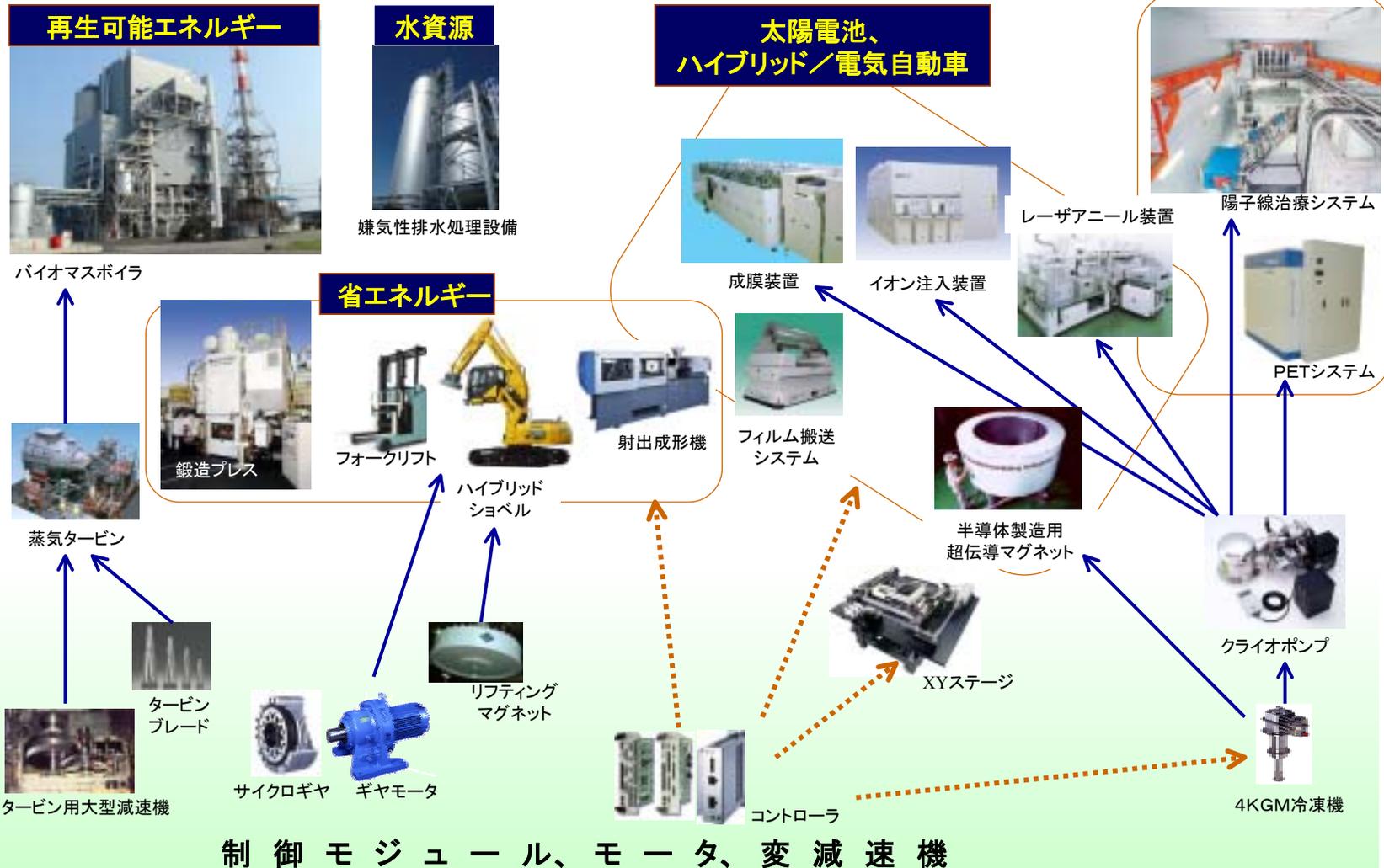
医療・製薬

住重グループの価値連鎖

システム

装置

キーコンポーネント
・基盤技術



経営方針

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位の確立を求め、健全な事業の発展を目指す
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、如何なるときにも堅実に収益を確保する
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策をバランス良く実践する

グローバル不況を凌ぎ切ると同時に、
次の成長を睨んで的確な手を打って行く

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。